



## 資料/電磁弁



設置時やそれに関する注意事項は、  
それぞれ別に用意された取扱説明書  
をご覧ください。

## ■コイルの結線方法

電磁弁の定格電圧は仕様欄にありますとおり、型式ごとに異なります。  
電源との接続に当たっては電源電圧が合致することを確認の上ご使用ください。

## 《共用電圧コイル》

- コイルのリード線は4色に色分けしてありますので、使用電圧により右図のように結線し、結線部は必ず絶縁処理を施してください。

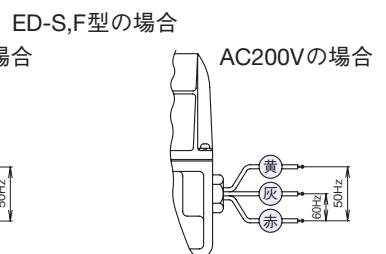
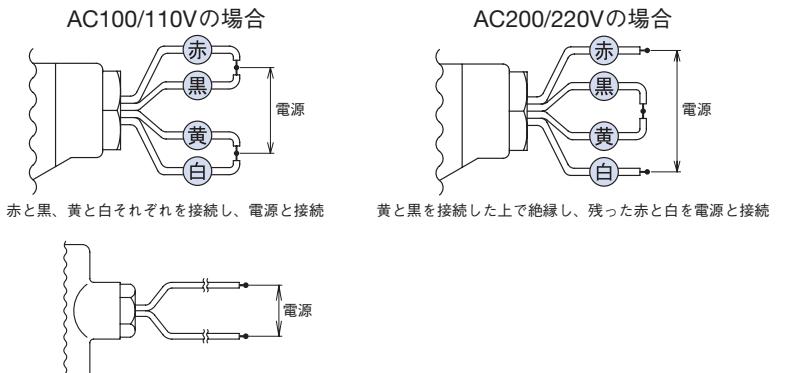
## 《専用電圧コイル・特殊電圧コイル》

- コイルのリード線は2本となっていますので、この2本に電源を結線し、結線部は必ず絶縁処理を施してください。

## 《周波数選択コイル》

- コイルのリード線は3本となっていますので、各型式ごとに表示してあります（製品に表示）選択方法で結線してください。

余った線1本は絶縁テープなどで絶縁処理してください。



## 端子箱(別途注文品)

電磁弁専用の端子箱で、電磁弁リード線出口にねじ込んで使用します。電源線とリード線との結線部分を、雨水の浸入や埃から保護します。

TB-03型シリーズは、ケーブルや電線管を使用した屋外用にも使用します。



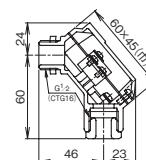
注：端子箱付は専用電圧となります。  
なお、端子箱付、又は単品でご注文の際は、電磁弁の型式、呼び径、電圧、周波数をお知らせください。(コイルの種類により付属品が異なります。)

## ■TB-03型シリーズ(屋内外用、金属製、防雨形)

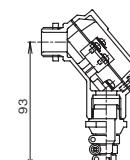
注：露点気温度85%を超える場合はTB-03C型又はTB-03F型をご使用ください。

## 〈表示ランプなし〉電源定格 250V 15A

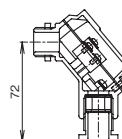
- TB-03型(標準品)  
グランドナット付



- TB-03C型  
キャップコン付



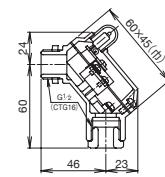
- TB-03F型  
船用相当グランド付



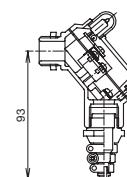
## 〈表示ランプ付〉 電源定格 AC100V又はAC200V

表示ランプ付をご注文の際は電圧をお知らせください。

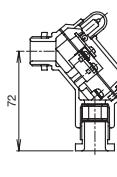
- TB-03L型  
表示ランプ付



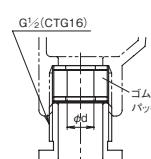
- TB-03LC型  
ランプ+キャップコン付



- TB-03LF型  
ランプ+船用相当グランド付

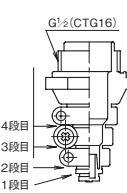


## ■グランドの仕様(TB-03F,03LF型)



グランドの呼び	d (mm)
15a	9
15b	10
15c	11

## ■キャップコンの仕様(TB-03C,03LC型)



切断位置	適合ケーブル外径
4段目	10~12
3段目	8~10
2段目	6~8
1段目	4~6

## 資料/電磁弁設置上のポイント



設置時やそれに関する注意事項は、  
それぞれ別に用意された取扱説明書  
をご覧ください。

図1. 配管例略図

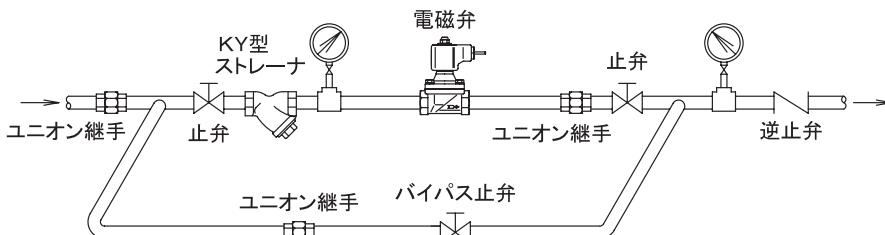
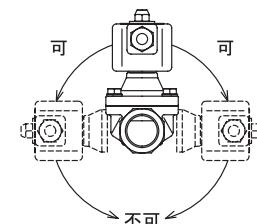


図2. 取付姿勢略図

水平配管に正立状態



注. 呼び径65以上は水平配管に  
コイルを上にした正立姿勢で取  
り付けてください。

## ■選定、設置上のポイント

- 電磁弁の一次側にストレーナを取り付けてください。(図1参照)  
※網目：国土交通省仕様は、電磁弁の前に設ける場合は80メッシュ以上。
- 運転を止められない装置の場合、電磁弁の一次側から二次側へのバイパス配管(止弁を設置)を設けてください。(図1参照)  
また、バイパス配管を設置しない場合は、電磁弁の一次側止弁手前に主管から分岐したブローバイパス用止弁を設置し、フラッシングができるようにしてください。
- 取付姿勢は、水平配管にコイルを上にした正立姿勢で取り付けます。(図1,2参照)  
ただし、桃太郎シリーズ(PS/PF-16,17型を除くはん用タイプ)の呼び径50以下は水平配管にコイルを上にした正立から水平(真横)までの取付姿勢で縦配管にも使用できますが、弁前後の差圧が0.03MPa以上必要となります。(図2参照)  
また、TB-03型端子箱付の場合、端子箱の電線挿入部が下向きとなるように取り付けてください。
- 電磁弁の二次側圧力が一次側圧力より高くなる場合は、弁閉できず逆流しますので、二次側には逆止弁を取り付けてください。(図3参照)
- 蒸気に使用する場合で、電磁弁が閉止した際に、二次側圧力が負圧となるような場合には、電磁弁の二次側に真空調整弁(バキュームブレーカ)を取り付けてください。(図4参照)
- 蒸気用の場合は、配管系にスチームトラップを取り付けてください。
- 流体が液体の場合、弁閉時のウォータハンマ現象や周囲温度による熱膨張により、配管内が昇圧する場合があります。機器などの保護のためレリーフ弁を取り付けることを推奨します。また、ポンプの吹込み側に電磁弁を設置する場合、負圧による作動不良の原因となりますので、電磁弁を弁開状態の後、ポンプ起動となるシステムとしてください。(図5参照)
- コイルの結線には0.75mm<sup>2</sup>以上の電線を使用し、正しく結線してください。また、電気回路保護用として、ヒューズを入れてください。
- コイルは連続通電や断続を繰り返した状態ですと、表面が約70°C位まで温度上昇しますので高温には注意してください。(使用条件、型式により上昇温度は多少異なります。)
- 電磁弁は、流体の流れ方向と製品に示す流れ方向の矢印を合わせて取り付けてください。
- 分解点検時には、スペースが必要です。必ずメンテナンススペースを確保してください。  
※メンテナンススペースについては、製品個々の取扱説明書にてご確認ください。
- 電磁弁には、配管の荷重や無理な力・曲げ及び振動がかからないよう配管の固定や支持をしてください。
- 凍結の恐れがある場合は、水抜きや保温などをしてください。  
ただし、コイル部分は保温しないでください。

図3. 二次側立ち上がり配管

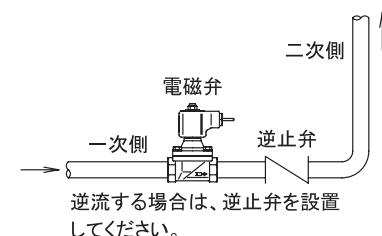


図4. 蒸気配管使用例略図

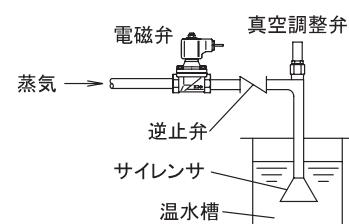
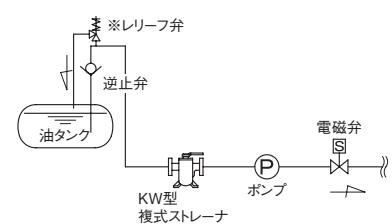


図5. レリーフ弁取付例略図



※熱膨張などで昇圧が予想される場合は、  
レリーフ弁を取り付けてください。